

海外学生派遣事業

終了報告書

所属： 先導科学研究科 生命体科学専攻

氏名： 金子 聡子

海外派遣先国名： 英国

海外派遣先大学名： エジンバラ大学

海外派遣期間： 2006年6月27日 2006年9月21日

(1) 海外派遣先大学について

エジンバラは街全体が世界遺産に登録されており、歴史を感じさせる建物が多く、ニュータウンと呼ばれる地区でさえ、18世紀に造られたものでした。そして、エジンバラ大学は、1583年に設立されたスコットランドで最も古い大学の一つです。その400年の歴史の中で、経済学者アダム・スミス、進化学者チャールズ・ダーウィンやイギリスを代表する推理小説家アーサー・コナン・ドイルなど数々の著名人を輩出しています。私が滞在した Institute of Evolutionary Biology は、Kings Buildings という、街の中心から少し離れたところに位置するキャンパス内にあり、William Hill, Brian Charlesworth, Deborah Charlesworth(受入教官)と言った集団遺伝学の分野におけるビッグネームと、中堅の Nick Barton, Peter Keightley などがおり、さらにそれぞれの教官にポスドクや学生が多数ついていました。そのため、集団遺伝学を学ぶには非常に刺激のかつ恵まれた環境でした。

今回の滞在の目的としては、博士論文研究の中で行っている集団遺伝学的な解析を進めることと、その解析を行う上での基礎となる概念及び解析方法について習得することと、第一線の研究者とその予備軍の人たちとの繋がりを作ることでした。

(2) 海外派遣前の準備

私は10月入学であるために海外学生派遣事業の応募が始まった2006年1月の時点で、既にD3になっており、3ヶ月海外に滞在すると3年間で卒業することはできなくなることは明白でした。しかし、海外の大学に滞在することは得難い機会と考え、採択されなかった場合は自腹で渡航する覚悟で応募することに決めました。

また、この事業の応募が始まる直前に投稿論文が受理されており、ポスドクの行き先として海外の研究者と連絡を取ろうと考えていたところでしたので、予てより候補として考えていた3人の研究者の名を挙げ指導教官に相談したところ、そのうちの1人と指導教官が知り合いだったために紹介状を書いて頂きました。

(3) 海外派遣中の勉学・研究

生活のペースとしては、研究室にいるのは9時-18時で、その間20分程度のお茶の時間と、30分程度の昼食の時間がありました。お茶や昼食の時間には、進化関係の先生やポスドクの人たちが集まって議論や研究の情報交換をしていることがほとんどでした。また、私が受入教官の家にお伺いした時には、夕食後にもお茶の時間があり、リビングで2,3時間程度論文などを読みながら過ごしていました。

私が滞在していた期間は夏休み中だったので、会議も講義も無く、教官も集中できる期間だったようで、頻繁に「今日、論文を submit したところで・・・」というフレーズを耳にしました。普段は講義やセミナーがあり、それなりに時間を取られてしまうそうですが、階級社会ゆえに経理などは非常に合理的なシステムになっており、教授であってもほぼ全ての時間を研究に費やすことができる環境でした。

自身の研究としては、渡航前に得ていたヒト集団の多型データの集団遺伝学的な解析を行うと共に、データの解釈のために必要な概念(集団構造や連鎖不平衡)について学びました。また、多型データを評価する方法は各現象につき複数の方法があるため、それぞれの方法の利点・欠点について比較検討を行いました。また、解析に用いるソフトウェアの使い方を習得し、さらに、ソフトウェアではできない解析を行うためにプログラミングの基礎についても習得しました。

また、集団遺伝学を中心とした進化についての PhD.コースの学生向けのサマースクールに参加しました。講義では英国で活躍する進化学者の話を聞くことができ、実習では新しいソフトウェアの使い方を学ぶことができ、とても有意義でした。ヨーロッパの学生は積極的でとにかく何でも質問していて活発な印象を受けました。

今回の滞在を通して、超一流の研究者がいるところには優秀なポスドクや学生が集まり、相乗効果によってものすごい activity の高さになることを実感しました。そして、レベルの高い人たちに囲まれてみて、現在の自分自身が、まだまだ研究者として生まれていないぐらいの段階であることを痛感するとともに、自分に足りないものが明確になり、漠然としていた眼前に進むべき道を見出すことができるように

なっただと思います。

(4) 海外派遣中に行った勉強・研究以外の活動

受入教官は夫婦共に研究者であるためか、短期滞在の学生や着任したてのポスドクは先生の家ホームステイするケースが多いようでした。実際、私が滞在していた間にも、フランスからインターンシップの学生が2ヵ月滞在していました。また、第一線で活躍する研究者と日常生活をともにすることによって、起きている時間の90%以上を研究に費やす生活スタイルを知り、しかも夫婦共に同じ分野であるため、いつでもどこでも議論ができるという最高の環境を目の当たりにするという、とても貴重な体験をしました。

研究以外の活動としては、週末を利用して、エジンバラ市内の美術館、博物館、植物園、エジンバラ城、ホリールード宮殿などを観光しました。また、8月のフェスティバル期間中には、ミリタリータトゥ(軍楽祭)とアルゼンチンタンゴとフラメンコの公演とフェスティバルのフィナーレの花火を観に行きました。

(5) 海外派遣費用について

渡航費は、往復の航空券と空港使用料などで約20万円でした。そして、海外旅行傷害保険に約4万円、別送の荷物(航空便でダンボール2箱)に、往復で約10万円かかりました(荷物は日本から送る場合は郵便局が安いことを後で知りました)。不足分は日本学生支援機構より得ている奨学金により補いました。また、海外学生派遣事業経費内訳は1ポンド220円で計算しています。

(6) 海外派遣先での語学状況

英語を使用。今回の渡航の前には特にTOFELなどは受けていません。

1対1での会話、特に英語を母国語としない人との会話はそれなりに成り立つのですが、英語を母国語とする人が複数いる場合の会話のペースでは、聞き取るのがやっとなで発言することはかなり困難でした。また、話題も研究に限らず宗教・政治・旅行と多岐に渡り、地名や人名は知らない限り分からないので、なかなか大変でした。

(7) 海外派遣先で困ったこと

予想していた以上に気温が低かったことです。6月末から9月にかけての滞在でしたが、北緯56度ということもあり、日本での春から夏ぐらいの気候を想定し衣類を持っていきましたが、想像以上に気温が上がらなかったため持って行った衣類では対応しきれず、長袖の衣服を購入する必要がありました。7月の中旬2週間ぐらいは最高気温が25度を超えるような夏らしい日があったのですが、8月中旬に秋の気配がしたと思ったら9月には日本の初冬ぐらいの気温になっていました。

(8) 海外派遣を希望する後輩へアドバイス

持って行って良かったもの。

・海外でも使える携帯：緊急連絡用として持っていったのですが、エジンバラに着くなりPCがウィルス感染し、OS再インストールになってしまったので、日本との連絡に携帯のメールを使うことができ、とても便利でした。(旧vodafone, 通信料は1回100円から200円)

・レインコート(フード付き)：エジンバラの雨は傘をさすほどでは無いのですが、移動は徒歩のため数分もすると結構濡れるので重宝しました。(これは英国特有かもしれません)

・気分転換できるもの(日本語の本やCDやDVDなど)：3ヶ月というそれなりに長い時間を海外で過ごすとなると、勢いだけでは乗り切れないので、自分なりに対策をしていくと良いと思います。幸いなことにスコットランドはDVDのregion codeが日本と同じで、しかも字幕や音声は英語以外にドイツ語・オランダ語・イタリア語などヨーロッパ各国の言語が収録されているので、現地でもいくつか購入しました。

気が付いたこと。

・出身国が違うことによる「違い」は想像以上に大きいこと。

当たり前のことではあるのですが、アメリカやヨーロッパ各国から人が集まっていたので、それぞれに民族的な背景が異なり、生活習慣やこれまでに受けてきた教育など何もかもが違うことを実感しました。あまりの違いにショックを受けることもありましたが、それぞれの国の個性が見えてくることに気が付き、違いを知ることを楽しむことができました。また、欧米の人たちにとっては、日本は非常に異なる

文化を持つ国なので興味を持ってくれている人が多くいました。しかし、私は語彙の乏しさから上手く説明することができず悔しい思いをしました。

・母国語以外の言語を話すことは、誰もが結構大変な思いをしているということ。
フランスから来たばかりの新生の子が、聞くときも話すときもフランス語から英語へ変換するので頭が痛くなると言っていて、英語が母国語でない限りはみんな苦労するようです。また、私が滞在した研究室は、フランス、ドイツ、イタリア、スペインなど英語圏以外の国出身の人が多く、お互いの国や地名などの母国語以外の言葉を発音するのは誰にとっても難しく、お互いに聞き取れず何度も聞き返したり、スペルを言ってみる光景をよく目にしました。
「大変なのは自分だけではないのだ」ということに気がつき、とても気持ちが楽になりました。

ある程度の長い期間海外に滞在するとなると、思いもかけないようなことに遭遇することになると思います。楽しいことも大変なこともいろいろ経験することと思いますが、どんなことが起きても positive に捉えることができれば、楽しく充実した滞在になると思います。そして、何はともあれ「体が資本」なので、体調管理には気を付けて下さい。

最後に、このような機会を与えて下さった指導教官、受入教官ならびに全学事業推進室のみなさまに感謝致します。